

学校番号	11	学校名	藤枝特別支援学校 焼津分校	校長名	木川 誠
------	----	-----	---------------	-----	------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	人権意識を高める	アンケートによるいじめの兆候に対する早期発見、早期対応 100%	年3回のアンケート実施 アンケートによるいじめの兆候に対する早期発見、早期対応 100%	B	<ul style="list-style-type: none"> アンケートに記載のあった内容は担任・学年で聞き取り、報告・対応を行った。また、内容に応じていじめ防止委員会の実施を検討した。 アンケートにあらわれない部分でいじめが発生している可能性もあるため、日常生活の様子をよく観察し、生徒の変化を見落とさないようにしていきたい。
イ	生徒自身の命を守る意識と行動力を育む	通学途上の自転車交通違反 0	通学途上の自転車交通違反 0	B	<ul style="list-style-type: none"> 登下校中に車と接触する等の事故が数件あった。交通安全教室の実施等、継続した注意喚起が必要。 防災訓練の事前・事後学習資料が充実し、生徒の危機管理意識が向上した。今年度は未実施となったが発災時を想定し、水高と合同で訓練を行いたい。また、居住地域ごとと中心となる防災が異なるため、保護者から情報収集したり、保護者に啓発したりしたい。
		地域での防災訓練参加 70%以上	地域での防災訓練が実施されなかった	B	
		安全で早い避難の実施避難完了3分以内	安全で早い避難の実施避難完了3分以内	A	
ウ	性についての正しい理解を図る	相手との適切な関わり方や、互いの距離感について理解できた生徒 100%	相手との距離感や適切な関わり方について分かったと答えた生徒81%	B	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師の活用（生徒向け、職員向け）や保健の授業を通して日常的に指導をすることができた。今後の課題としては、年間指導計画を見直し、3年間で系統立てた指導を行いたい。
エ	業務改革による多忙化解消を図る 「効率よくかつ迅速に、なごやかでおだやかな職場づくり」	業務が精選されたと評価する教員 80% 工夫や配慮の共有により事務処理時間が確保されたと評価する教員 100%	授業のための業務改革が進んだと評価する教員 76%	B	<ul style="list-style-type: none"> 日課の変更や会議の精選、引継ぎ方法の工夫などにより、教材研究や授業準備の時間が増え、業務改革が進んだ。よって、事務処理時間も確保できた。ただし、生徒指導事案の発生時や職場実習前などは超過勤務が増え、多忙感を感じる教員が多く見られた。

様式第3号

		毎週水曜日の定時退勤日 18 時実施 100%	毎週水曜日の定時退勤日 18 時実施 達成率 89%	B	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初事務処理、生徒指導関係で定時退勤ができない日があった。 ・管理職、部主事とも不在のときは学年主任、課長が意識して定時に帰るよう促せるようになりたい。
		超過勤務の月合計 40 時間以内の教員 90%	超過勤務の月合計 40 時間以内の教員 74%	B	<ul style="list-style-type: none"> ・月 80 時間以上超過者は 0。 ・22 時以降まで残った職員（延べ人数）は 5 割減少した。 ・新しい生活様式に係り、そのための準備とした期間や、職場実習前の時期に超過時間が多い職員が多かった。年間を見通した業務の遂行、業務の整理、保存の仕方を工夫したい。
オ	生徒主体の授業づくりに取り組む	「何をどのようにわかったか考えたかと言えるかける生徒」 100%	「何をどのようにわかったか考えたかと言えるかける生徒」 100%	B	<ul style="list-style-type: none"> ・3 年生は職業、1 年生は作業、総合の回答が多かった。3 年生は自信をもって答えていたが、学年が下になるほどまだ自信をもって言えない傾向がある。目的、ねらいを明確にした学習活動を今後も目指していきたい。
		「自分の良さ・得意がわかる生徒」 100%	「自分の良さ・得意がわかる生徒」 100%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感、達成感を感じている生徒が多かった。今後もこの傾向が続くよう指導、支援したい。
		「自分の課題がわかる生徒」 100%	「自分の課題がわかる生徒」 94.3%	B	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の課題が意識できていない生徒は、自分の強みも自信をもって言えない場合が多い傾向にあるので、達成感を感じられるような指導を引き続き行いたい。
カ	個々の専門性を向上させる	一人一授業発表の実施 100% 職員の外部研修会公開授業研究会等への参加 100%	一人一授業発表の実施 100% 職員の外部研修会公開授業研究会等への参加 66.7%	B	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一授業研は 2 月予定者も含め全員が実施した。 ・コロナ禍で外部研修会の参加は少なかった。そのかわり、eラーニングのコンテンツが充実してきた。いつでもできることが利点だが、通常勤務の中では、いつかやろうという気持ちになりがちで実際にはできない場合が多かった。

様式第3号

キ	自己肯定感を高める	「学校に居場所がある」「相談できる友達や教員がいる」と評価する生徒 100%	「学校に居場所がある」「相談できる友達や教員がいる」と評価する生徒 94.3%	B	<ul style="list-style-type: none"> 評価がなかった生徒でも、学校を離れた場には、落ち着ける場所、相談できる人がいるので、学校がそのような場になるよう環境設定、相談できる対応ができるようにしたい。
ク	働き続けるための体力を育てる	持久力、投力の向上 80%	投力 72%、持久力 84%の向上	B	<ul style="list-style-type: none"> 週1回の投力トレーニングや毎日の5分間走を継続することで記録の向上を図った。今後の課題としては、生徒が自ら目標をもって取り組めるように、記録表の活用方法について生徒・教員へ周知したい。
ケ	水産高校及び焼津地域での共生・共育を進める	交流行事への充実感 70%以上	交流行事への充実感 82%	B	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍での難しさはあったが、水高祭、交流行事等で交流や生徒の活躍の場を設定することができた。研修等教員同士も関わりを持てる機会を設定し、交流の幅を広げていきたい。 コロナ禍ではあるが、交流先の施設や学校、事業所などと話し合いながら、できる形の交流を行い満足感や達成感が得られた。地域作業ができなかったことが残念だが、来年度もできる形の交流を検討し実施していきたい。
		水産高校や地域での共生・共育を行い、互いの理解が深まったと実感できた教員 100%	交流を通じて、共生共育を推進することができたと評価する教員 76.5%	B	
コ	進路先の確保と就労希望の生徒の就職を実現する	生徒が希望する進路先、実習先決定に向けて、生徒の障害特性や状況に応じた適切な進路指導ができたと答える教員 100%	生徒が希望する進路先、実習先決定に向けて、生徒の障害特性や状況に応じた適切な進路指導ができたと答える教員 100%	A	<ul style="list-style-type: none"> 3年生は、17名全員が企業就労の方向で各企業と話が進んでいる。実習先については、コロナウィルスの影響が強く出ている飲食関係での実習ができなかったが、代わりとなる業種で実習できた。今後の課題としては、教員の進路指導力の向上と、保護者の支援力や進路理解などの保護者指導が必要と感じる。
サ	将来の生活を具体的にイメージできるようにする	生徒や保護者の願いを反映させた個別の指導計画を基に、卒業後の生活を見据えた支援ができたとする教員 100%	個別の教育支援計画と個別の教育指導計画を活用した指導を行い、保護者と共通理解して進めていると評価した教員 92.9%	A	<ul style="list-style-type: none"> 面談等で生徒、保護者と共に、目標とその達成度を確認しながら、進めることができた。目標に対する取り組み状況を日常的に評価し、指導へ変えていきたい。

